

平成28年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

Kibi Kibi ふれあい交流キャンプ

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

不登校傾向にある中学生の家族を対象とし、自然体験活動を通して社会性や協調性を育み、子育てについて考えたり親子や参加者間、関係機関等との人間関係をつないだりできるように支援する。

2. 事業の概要

（1）期日

第1回 平成28年10月16日（日）日帰り

第2回 平成28年11月12日（土）～11月13日（日）1泊2日

第3回 平成29年 1月28日（土）～ 1月29日（日）1泊2日

（2）参加者

① 募集対象・人数

現在不登校（不登校気味）の中学生を含む家族 8家族

② 参加者数

第1回 1家族 3人

第2回 1家族 2人

第3回 11家族17人

（3）講師等

国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職

遊木皆（Tree+ing Club）【第1回～第3回】

（一財）河田病院 臨床心理士 山下 弥生 氏【第2回、第3回】

（4）企画・運営のポイント

- ① 不登校生徒の現状を把握し、不登校生徒とその保護者が参加しやすい効果的なプログラムにするため、それぞれの専門分野を持つ有識者の方を集め、推進委員会を設置した。
- ② 昨年は、倉敷市教育委員会と連携し、市内5か所の適応指導教室の生徒を対象としたが、今年度は、参加対象を岡山全県に広げ、県内の適応指導教室と連携をとりながら事業を進めた。
- ③ 今年度は、新たに親子別プログラムを取り入れた。保護者が日頃の子育ての悩みを共有したり相談したりすることをねらいとして設定した。また、不登校の小中学生をもつ保護者からの強い参加希望にも柔軟に対応し、参加決定した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

第1回

10月16日(土)			
9:30	受付	13:00	ツリーイング
10:00	開会式 アイスブレイク 所内探検	15:30	閉会式
12:00	昼食		

第2回

11月12日(土)		11月13日(日)	
9:30	受付	6:45	起床・洗面・清掃
10:00	開会式 アイスブレイク オリエンテーション 所内探検(親子共通)	7:45	朝のつどい
12:00	昼食	8:00	朝食
13:15	ツリーイング(親子共通)	9:00	片付け 準備
16:00	フリータイム	10:00	選択活動: <u>マウンテンバイク</u> ・ <u>樹木ビンゴ</u> ・ <u>釣り</u> ・ <u>カプ</u> <u>ラ</u> (中学生)
17:15	夕飯のつどい		情報交換会(保護者・講師・職員)
17:30	夕食 休憩	12:00	昼食 休憩
19:00	選択活動: <u>野外観察</u> ・ <u>カプラ</u> ・ <u>ボードゲーム</u> (親子共通)	13:30	振り返りタイム
20:30	入浴 就寝	14:00	閉会式

*選択活動のうち、実施した活動に下線

第3回

1月28日(土)		1月29日(日)	
9:30	受付	6:45	起床・洗面・清掃
10:00	開会式 アイスブレイク 所内探検(親子共通)	7:45	朝のつどい
12:00	昼食	8:00	朝食
13:00	フリータイム	9:00	片付け 準備
14:00	クッキングタイム(親子共通) ・正月料理(雑煮) ・炊き込みご飯 ・サラダ	10:00	選択活動: <u>ツリーイング</u> ・ <u>マウンテンバイク</u> ・ <u>散策</u> (中学生)
19:00	選択活動: <u>天体観察</u> ・ <u>カプラ</u> ・ <u>トランプ</u> (中学生)		情報交換会(保護者・講師・職員)
20:30	交流会(保護者・職員) 入浴 就寝	12:00	昼食 休憩
		13:30	振り返りタイム
		14:00	閉会式

(2) 活動の様子



【アイスブレイク】



【アイスブレイク】



【ツリーイング】



【ツリーイング】



【釣り】



【カプラ】



【クッキングタイム】



【クッキングタイム】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 参加前から連絡をきちんとしてくださり、安心して参加できました。
- ② 要所でのスタッフの声かけがあり、みんな信頼しているので伸び伸びと活動していました。
- ③ 子供に優しく接してくださいました。とてもありがたかったです。事業の中で一番価値が高いのは、スタッフの皆様だと感じました。

(3) 成果

- ① 日程に余裕をもたせたり、選択活動を取り入れたりすることで、子供達は、伸び伸びと楽しみながら活動を行うことができた。
- ② 第3回で実践した講師を囲んでの情報交換会では、日頃色々な思いを抱えている保護者の思いが赤裸々に語られ、相互に共感するとともにアドバイスをするなど、親子別にプログラムを分ける有意義な場であった。

(4) 今後の課題

- ① 第1回、2回ともに親子での参加を必須としたために、参加者が少なかった。適応指導教室だけでなく、当所のHPや県の関連事業、推進委員の情報提供など、今後、幅広い広報を工夫していきたい。
- ② 第3回からは、中学生のみの参加を可能として広報を行って、17人11家族を確保したが、次年度も中学生の親子対象とするなどの基本線を中心としながらも、柔軟に対応して課題を抱えている子供への支援を図っていきたい。

担当：企画指導専門職 徳永 正樹